上関原発を建てさせない山口県民大集会２０１７

集会宣言（案）

東日本大震災、そして東京電力福島第一原発事故から６年が過ぎました。今なお多くの方が苦しい避難生活を余儀なくされています。わたしたちはこの間、「福島を忘れない！さようなら上関原発！」を合言葉に、県民の皆さんに広く訴え、県民の声を聞いてきました。そして本日、県内外からここ山口市に集いました。わたしたちは、震災と原発事故を決して風化させることなく、福島をはじめ被災された皆さんに心から連帯し続けます。

原発がひとたび事故を起こせば取り返しのつかない事態に陥ることが明らかになりました。事故はまだ収束も解決もしていません。豊かな田畑や海、家庭や仕事、ふるさとの暮らしを奪われた福島の皆さんの怒りや悲しみに、わたしたちは心を寄せ、「原発はいらない」という思いをさらに強くしています。

しかし、わたしたちの思いとは反対に、村岡嗣政山口県知事は２０１６年８月３日、上関原発を事実上容認する公有水面埋立延長許可を中国電力に交付し、さらに山口県議会では２０１６年１０月７日、自民・公明会派を中心に、原発推進を国に要望する意見書を強行可決しました。県民の命と暮らし、そしてふるさとを守るべき知事や県議会の動きに、わたしたちは大変失望させられました。

全国的には、原発再稼働に慎重姿勢を示す知事が誕生し、再稼働差し止めを命じる司法判断も出始めています。世界的にも、ドイツやイタリアなどに続いて台湾が原発ゼロの方針を決めました。民意は確実に脱原発へ向かっているにもかかわらず、山口県の状況は、時代の流れに逆行していると言わざるを得ません。

村岡知事、どうか県民をはじめ、日本各地や世界から寄せられる「上関原発はいらない」の声に耳を傾け、県民の思いを汲みとり、考え直してください。そして、今を生きる世代だけでなく、将来の山口県を担う子どもたちのためにも、上関原発建設を認めないでください。

上関原発反対のたたかいは、これからの日本のあり方を決める分岐点です。わたしたちは、上関原発計画が白紙撤回されるまで、何度でも訴え続けます。祝島をはじめ上関町の皆さんを中心に３０年以上続けられてきたこのたたかいを一刻も早く終わらせ、すべての原発をなくしていくために、共に立ち上がり、声を上げましょう。

わたしたちがこの国で安心して暮らしていく権利は、わたしたち自身で守ります。

以上、集会参加者の名によって宣言いたします。

２０１７年３月２５日

上関原発を建てさせない山口県民大集会２０１７参加者一同